

Capo. 0

Am

たじやみ

Am G G Am Am G G Am

Em Am G Am Em Am Dm G
たじやみはいつも同じで、どしどしことでも

Em Am Dm G Am
あれこれと考えては 苦しくなること

Em Am G Am Em Am Dm G
不安なことが先立ち 心配ばかりして

Em Am Dm G Em Am
気が落ちこんでは 思いわすらうばかり

Am G Am
どうしたの、いなか

Am G Am
わからずい、おしえて

Em Am G Am Em Am Dm G
同じことを何度も 行ったり来た

F G C Am F G C
ああ早く霧を晴らして うららかにいたい

D G D G A (木 - G)

ひとつも良くなるなら、何をやらせて

今やるべきことは 一体なんだろう

自粛生活が続く 自由にできない

この先を考えては 思いわすらうばかり

Capo. I

G#

山道の石像

Am7 Gmaj7 Am7 Gmaj7

ここまで来たのに 引き返すことはできない

歩いてゆくには あまりにも 遠くはてしない。

風に吹かれてさまよった。ながち 茶色の落葉道の端に

コケで緑にひび割れているアスファルトが 正にやさしい

少しだけ冷たく 薄くなった 空気の中で

誰かともわからなくなっていた 石像の群れ

とても少く訪れる人を 薄笑み浮かべ見守りながら

長い年月居たつた時 時には土にうつ伏せのまま

いそいそと人々は君たちに頼り、そして 多くの人の心には

届く様に仕向けた。それも終わりに 自然に帰る姿が

せつない

CGDGAD (ホルネカ)

いつからか 僕たちの周りには なくなっていた

飛びたつ鳥の羽けたきと 驚く虫の飛び回る気配

茂みの中の植物たちは 君たちの事をいつも見ていた

そうさ 決してひとりじゃないよ さっと誰かを見てくれる

少しだけ暖かく 傾いてきた木漏れ日の中で

人として生かされてる 事実だけを 踏みしめながら

とてもさみしい 光景だ けれど 君たちに会えてとてもよかった

いっか 誰かを 連れて来たつ 待っていてね また来る日まで

胸がいたくなるほど 傷ついた君たちよ

多くの人のために 何百年も立ち続けた

それもできず 傾いてる姿もせつない

Capo. 0

僕の人形

C G C G C G D

G Em C Em
机の上のかざりのように

G Em C Em G Em
静かにやさしく君を置いておけたら

C G D G
だけどいつもの君は 活発で明るい

C G
普通の女の子だから

D G D G B7
僕にはとてもできっこない ..

1-マシ、オプンGm

C G C G C G D

G Em C Em
ちよっと手を出すと逃げたような君

G Em C Em G Em
かくはかな君だから僕はうっ向いてばかり

C G D G
だけど暖かいカーテンの中で君を

C G
見守ってあげるから

D G D G B7
僕の人形になっほしい ..

G Em C Em G Em C Em G Em

C G D G
寒い夜にはストーブたいてギターを弾いた

C G
歌ってあげるから

D G D G B7
僕の人形になっほしい ..

Cape U

Am

つかのまの陽の光

C G Em Am C G Em Am

^{Am}少し寒くなった ^G午後の ^{F G}陽の光を ^{Am}浴びながら

^{Am}西へ向かう ^G鳥たちにも

^Fうっすら ^G鳴き声 ^{Am}が聞こえてくる

^G我が子の ^Cこども ^Cゆからぬ ^Cほどに

^G年老いて ^Cしまつても

^G今 ^Cよみがえる ^G子供の頃 ^{Am}に遠く ^{Am}を見つめた ^{Am}ながら

^{Am}杖を ^Gついて ^G歩く ^{Am}姿に

^F涙も ^G枯れて ^{Am}しょう

ルーマル

C G Em Am C G Em Am

^{Am}おぼろ ^G昔の ^{F G}出来事 ^{Am}を ^{Am}まるで ^{Am}昨日 ^{Am}の ^{Am}こと ^{Am}のように

^{Am}幼い ^G頃の ^G我が ^G子の ^Gこと ^Gを

^F妄想 ^Gに ^{Am}浮か ^{Am}べ ^{Am}ながら

^G笑い ^Cながら ^C走 ^Cった ^C日 ^Cよ

^Gあの ^C頃は ^C帰 ^Cら ^Cない ^Cよ

^G今 ^Cよみが ^Gえる ^{Am}若 ^{Am}い ^{Am}頃 ^{Am}を ^{Am}打ち ^{Am}研 ^{Am}く ^{Am}残酷 ^{Am}さ

^{Am}年 ^Gを ^Gと ^Gって ^Gど ^Gう ^Gな ^Gる ^Gか

^F誰 ^Gに ^{Am}も ^{Am}ゆ ^{Am}か ^{Am}る ^{Am}は ^{Am}す ^{Am}た ^{Am}い

C G Em Am C G Em Am

Copy 3

1- No 能

D A7 A7 D

誰にも本当の自分は ^D見せたくない ^{Em}

付き合いが ^{Em}多いほど ^{A7}仮面が ^D増えてゆく

いよいよ私は ^D大人のふり ^{Em}してるだけ

甘えているこの ^{Em}ほうが ^{A7}けるかに ^D多い

強 ^Gい人に ^Dしがみついて ^Dいたいのが

外面 ^{Em}を ^D気に ^{Em}して ^Dは ^D自分を ^D装う

* 仮面 ^Gが ^Dぶって ^D風 ^Dを ^Dまいて ^D歩いて

不安 ^{Em}をか ^Dかす ^{Em}ための ^Dこと ^Dで ^Dい ^Dっぱい **

10A D F#A D (ホホホ)

D Em Em A7 D

何も ^Dわ ^{Em}せ ^{Em}ら ^{A7}な ^Dい ^{Em}と ^{Em}言 ^{Em}う ^{A7}だ ^{Em}け ^{Em}の ^{Em}勇 ^{Em}気 ^{Em}も ^{A7}な ^Dく ^{Em}て

あ ^{Em}い ^{Em}づ ^{Em}ち ^{A7}が ^D上 ^{Em}手 ^{Em}く ^{A7}な ^Dり ^{Em}芝 ^{Em}居 ^{Em}が ^D増 ^{Em}え ^{Em}て ^Dゆ ^{Em}く

い ^Dえ ^{Em}い ^{Em}え ^{Em}私 ^Dは ^{Em}わ ^{Em}か ^{Em}て ^{Em}る ^{Em}ふ ^{Em}り ^{Em}し ^{Em}て ^{Em}る ^{Em}だ ^{Em}け

役 ^{Em}に ^{Em}立 ^{A7}た ^{Em}な ^Dい ^{Em}こ ^{Em}と ^{A7}が ^Dける ^{Em}か ^Dに ^D多 ^{Em}い

張 ^Gり ^Gつ ^Gめ ^Gた ^D沈 ^D黙 ^Dを ^Dう ^Dち ^D破 ^Dり

ま ^{Em}る ^{Em}で ^D舞 ^{Em}台 ^Dの ^{Em}よ ^{Em}う ^{Em}に ^D颯 ^{Em}爽 ^{Em}捲 ^{Em}る ^D舞 ^Dう

* 仮面 ^Gが ^Dぶ ^Dって ^D人 ^Dの ^D前 ^Dで ^D話 ^Dして ^Dと

ホ ^{Em}口 ^{Em}を ^D出 ^{Em}さ ^Dぬ ^{Em}だ ^Dけ ^{Em}の ^{Em}こ ^{Em}と ^Dで ^Dい ^Dっ ^Dぱ ^Dい **

* ~ **

* ~ **

Ooshirabiso

Fmaj7 Am F G C Dm F G E7 Am

F G C F G C
横殴りの風 夏の終わりに 告げる

F G C Am F G Am
草原斜面が 連なり 高度 感じさせる

F G C F G C
稜線の中の花を 見守る 様には

F G C Am F G Am
上枝枯れた オオシラビソ 地を這り 回る

Am Dm E7 Am
風雪にさらされて まで

F G C E7
此処にいるのは 何故なのか

Am Dm E7 Am
ああこんな姿 になっても

F G C E7 Fmaj7 Am
強くなれる理由 教えてくれ

F G C F G C
茶の花を大切に 抱いて

F G C Am F G Am
短く夏の輝きを ひとおしと 芝に

Am F G C Dm F G E7 Am F G C Dm F G E7 Am
Am Dm E7 Am
いつしか 空が 仄く なる

F G C E7
冷たい 霧が 降っている

Am Dm E7 Am
振り向き 気がついて みれば

F G C E7 Fmaj7 Am A
白い 景色に 見えなく なる

A D E
雲の中を 歩き 抜けば

A D E
つかの間の 虹が 見える

A D E
片隅に 追いやられた

A D E Fmaj7 Am
自然の 叫びも 聴き 取って

F G C F G C Am
やがて来る 冬に 身は 度もしないで

F G C Am F G Am
地面に向かっ て 柱を 抱えている

F G C F G C
どこまでも 白い 藪の中 であらう

ココロ

Gm

こもれびを浴びて

Em D Em G D Em Em D Em G D Em Em C D G Em C D G

D
Em D Em G D Em
ずっと前から それは気づいてたんだ

Em D Em G D Em
何か起すとも おどろかなくなつたよ

Em C D G Em C D Em
よくないことばかり 起まっているから

Em C D G Em C D Em
ああ ひとごとのように思っているから

それとなくテレビ眺めてはみても

悪いニュースばかり 当たり前になつた

伝える事も仕方がないやう

やり場のなさに 目をそらしてしよう

G C D G C G
見つめよう ほんがことも そう前向きに

G C D G C G
暗い世の包しでくれる こもれびのように

ココロ

人気がない道 抜けたら車止めて

ゆるいカーブの端 潜む林の中に

何かか うごめく気配...ときめく

見飽きた日常 刺激を求め

ふと気付いた頃 場所を知りたくなって

それとなく手にした ふところのモバイル

見たくなかった 未読の知らせに

引き戻される いつかの自分

★ 続けよう やりたいこと そう前向きに

まぶしさ 散りばめてる こもれびのように ★★

(★ ~ ★★ くりかえし)

✓

聖なる夜に

F C Dm C F C Dm C

C G Am F
街に輝くイルミネーション

C Dm G
流れてくるメロディ

C G Am F
お部屋にも何か飾りたくて

C Dm G
小さなリースを

Am Fmaj7 C E7
生まれた日はなく誕生をお祝ひする日

Am Fmaj7 C G7
1酒を残したおひの無事も祝って

* C G Am Em
Oh Merry-Christmas-Tay Oh A-Merry-Christmas-Tay

F Em Dm G7
大事な君と

C G Am Em
Oh Merry-Christmas-Tay Oh A-Merry-Christmas-Tay

F G C
明日を迎える **

ノーマル

クリスマスの色 赤と緑 白に金銀

赤は愛の色 緑は命 白は清らかさ

金銀は希望と豊かさ気高さの色

向かい合った1つと 明日を夢見て

Oh Merry-Christmas-Tay Oh A-Merry-Christmas-Tay

しあわせ誓って

Oh Merry-Christmas-Tay Oh A-Merry-Christmas-Tay

確かめあって

(** ~ ** くりかえし)